

会 告 目 次

坂井記念特別賞の新設と候補者の募集について	色紙
アンケート用紙	色紙
研究発表会開催通知	2
第93回 自然言語処理研究会	2
第9回 情報メディア研究会	3
第46回 ヒューマンインタフェース研究会	4
第42回 情報システム研究会	4
第86回 人工知能研究会	5
第81回 コンピュータビジョン研究会	5
第90回 計算機アーキテクチャ研究会	} 合同
第65回 設計自動化研究会	
第69回 記号処理研究会	7
第25回 コンピュータと教育研究会	8
第31回 アルゴリズム研究会	8
第10回 プログラミング—言語・基礎・実践—研究会	8
第59回 マルチメディア通信と分散処理研究会	9
ソフトウェア工学研究会	10
計算機アーキテクチャ研究会	10
グラフィクスとCAD研究会	11
第3回 グループウェア研究グループ研究会	11
第6回 テクニカルコミュニケーション研究グループ研究会	11
「音楽情報科学研究会」発足のお知らせ	12
「オーディオビジュアル複合情報処理研究会」発足のお知らせ	13
「グループウェア研究会」発足のお知らせ	14
「自然言語資源の共有化」研究グループの新設について	15
「マルチメディア情報システム産業応用」研究グループの新設について	15
平成5年度研究会について	15
第44回 全国大会奨励賞の表彰	16
論文賞候補の論文推薦のお願い	17
第46回 全国大会予約案内	18
「手書き文字認識技術の過去・現在・未来」シンポジウム開催について	20
「連続セミナー 92」の参加について	21
第5回「利用者指向の情報システム」シンポジウム論文募集	23
ソフトウェア工学小規模国際会議'93 論文募集	24
学会発表データベースの統合サービス開始について	25
本会協賛等の行事案内	26
平成4年度会費、論文誌・欧文誌購読費の納入について	26
支部だより	26
会議案内	27
教官募集	28

研究発表会開催通知

(平成4年12月14日～平成5年1月31日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
*ソフトウェア工学	12月14日(月) 12月15日(火) 12月16日(水)	10:00～18:00 9:30～18:40 9:30～15:25	電 総 研	前号参照
グラフィクスとCAD	12月17日(木) 12月18日(金)	10:30～17:15 9:00～17:30	常盤工業会館	同 上
自然言語処理	1月13日(水) 1月14日(木)	13:15～16:50 10:00～16:50	北海学園大	下記参照
情報メディア	1月14日(木)	10:00～17:00	機械振興会館	同 上
ヒューマンインタフェース	1月14日(木)	13:10～16:50	同 上	同 上
情報システム	1月19日(火)	9:30～17:00	同 上	同 上
人工知能	1月20日(水) 1月21日(木)	13:00～17:30 9:10～12:30	A T R	同 上
コンピュータビジョン	1月21日(木)	10:00～16:30	広 島 大	同 上
計算機アーキテクチャ } 合同 設計自動化	1月21日(木) 1月22日(金)	10:00～17:50 10:00～17:00	松下電器(大阪)	同 上
記号処理	1月22日(金)	10:20～16:45	日 電(本社)	同 上
コンピュータと教育	1月22日(金)	13:00～16:40	工 学 院 大	同 上
アルゴリズム	1月25日(月)	13:30～17:00	東芝科学館	同 上
プログラミング—言語・基礎・実践—	1月28日(木) 1月29日(金)	13:00～18:00 9:30～16:30	富山県立大	同 上
マルチメディア通信と分散処理	1月29日(金)	9:30～17:00	三菱電機(鎌倉)	同 上

*「仕様記述の効率的適用と評価」研究グループ (主査: 大蒔和仁, 幹事: 伊藤 潔, 本位田真一) と合同で開催されます。

◆ 第93回 自然言語処理研究会

(発表件数 13件)

(主査: 野村浩郷, 幹事: 徳永健伸, 永井秀利, 林 良彦)

日 時 1993年1月13日(水) 13:15～16:50

14日(木) 10:00～16:50

会 場 北海学園大学 工学部 38番講義室

(札幌市中央区南26条西11丁目, JR: 札幌下車, バスターミナルより札幌市営バス真駒内線(南54), 藻岩線(南55), またはじょうてつバス: 南27条下車, 道路向い側, Tel. 011 (841) 1161)

議 題

1月13日(水) —13:15～16:50—

- (1) EDR 電子化辞書を用いた単語類似度計算法 崔 進, 小松英二, 安原 宏 (EDR)
 [概要] 用例ベース MT システムにおける, 日本語または英語単語同士の類似度を計算する方法を提案する。
- (2) 外電経済ニュースの定型文抽出とその英日機械翻訳 加藤直人, 相沢輝昭 (NHK)
 [概要] 頻出する定型パターンに着目して, 定型文を抽出し, それを英日機械翻訳する手法について述べる。
- (3) 日英自動翻訳のための日本語ニュース文自動短文分割と主語の補完 金 淵培, 江原暉将 (NHK)
 [概要] パターン・マッチングによって長文ニュースを短文に自動分割し, 統計的手法で主語の補完を行う。
- (4) 帰納的学習による機械翻訳手法の評価実験

内山智正 (北大), 荒木健治 (北海学園大), 宮永喜一, 柄内香次 (北大)

〔概要〕 学習型と解析型を融合した機械翻訳手法を実現するため学習型機械翻訳手法の利点と問題点を考察した。

(5) 帰納的学習によるべた書き文のかな漢字変換の有効性 高橋祐治, 荒木健治, 桃内佳雄 (北海学園大)

〔概要〕 階層的な辞書の帰納的構成と, それを用いた変換実験の結果および有効性について述べる。

1月14日 (木)

—10:00~12:00—

(6) 名詞述語文からの概念学習システム—継承と経路情報の処理—

佐々木淳一, 富永 睦, 荒木健治, 桃内佳雄 (北海学園大)

〔概要〕 概念学習システムにおける継承処理と概念関係経路情報の生成と適用による解析法について述べる。

(7) なかどめ複文における事態間の関係と知識

桃内佳雄 (北海学園大)

〔概要〕 事態間の意味的關係, 時間的關係の分類とそれらを同定するための知識について考察する。

(8) 情景理解における二対象間の空間的關係の補完 池田尚司, 山田 篤, 西田豊明, 堂下修司 (京大)

〔概要〕 テキスト中に明示されていない二対象間の空間的關係を対象知識を用いて抽出し, 情景理解に利用する。

—13:15~16:50—

(9) 英文における未登録語の意味推定

山田一郎, 山村 毅, 佐川雄二, 大西 昇, 杉江 昇 (名大)

〔概要〕 英語の文章を対象にし, 辞書に登録されていない単語の意味を名詞に限定して推定する手法を述べる。

(10) 対話文における誤りの自動修復

佐川雄二, 大西 昇, 杉江 昇 (名大)

〔概要〕 頑健な対話システムに必要な, 言い淀みや言い誤りを含む文から正しい文を推定する手法を述べる。

(11) A New Foundation of Typed Unification Grammars

赤間 清 (北大)

〔概要〕 タイプつきユニフィケーション文法を一般化論理プログラムのサブクラスとして定式化する。

(12) プログラム変換による意味の解釈

野村祐士, 赤間 清, 宮本衛市 (北大)

〔概要〕 知識, 状況, 文の意味を節集合で表現すると, プログラム変換によって, 文の意味の解釈ができる。

(13) 第14回計算言語学国際会議 (COLING-92) 報告

林 良彦, 石崎雅人 (NTT), 古瀬 蔵 (ATR), 木下 聡 (東芝)

〔概要〕 COLING-92 の会議概要, および, いくつかの興味ある論文発表について報告する。

◆ 第9回 情報メディア研究会

(発表件数: 7件)

(主査: 相磯秀夫, 幹事: 石塚英男, 上林憲行, 田中 謙, 中川 透)

日 時 平成5年1月14日 (木) 10:00~17:00

会 場 機械振興会館 地下3階 研修2号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 三田線御成門下車, または JR: 浜松町下車, バス: 渋谷—東京タワー線東京タワー, 渋谷—東京駅八重洲線虎ノ門5丁目下車, Tel. 03 (3434) 8211〕

議 題 小特集: メディアとメタファ

—10:00~12:30—

(1) ファッション記事をもとにした感性表現データベースと比喩

松田紀之 (筑波大)

〔概要〕 画像をともなう感性表現体系の中で比喩の持つ創造性, 発想支援の役割を調べるための基盤について。

(2) 「メディア (触媒) としての音」をデザインする

庄野泰子 (音環境デザイナー)

〔概要〕 世界や環境と発見的に関わる瞬間を開く「メディア (触媒) としての音」のデザインの在り方と可能性。

(3) HI 環境の演化的構築法

大場章男 (ソニー)

〔概要〕 TV 番組や映画等の動画像メディアにおける演出構造の抽出実験とインタフェース環境構築への応用。

—13:30~17:00—

(4) 新たなコミュニケーションモダリティとしての表情

竹内彰一, 長尾 確 (ソニーコンピュータサイエンス研究所)

〔概要〕 会話状況に応じて表情が変化するような顔をもつコンピュータとの対話について論じる。

(5) 認知的インタフェースにおけるメタファの役割

楠見 孝 (筑波大)

〔概要〕 システム上の比喩的世界の実現とアイコンの設計原理について, 認知心理学に基づいて検討する。

(6) プリミティブマッチング法: 隠喩理解のための計算モデル

諏訪正樹, 元田 浩 (日立)

〔概要〕 プリミティブの一致という意味的制約により隠喩文が内包する類比対応関係を発見する。

(7) novel metaphor の理解に必要な知識表現とアルゴリズム

土井晃一 (富士通研)

〔概要〕 新しい隠喩理解に必要な連想リストについて述べ, その利害得失について述べる。

◆ 第46回 ヒューマンインタフェース研究会

(発表件数: 5件)

(主査: 安西祐一郎, 幹事: 井関 治, 小川克彦, 廣瀬通孝)

日時 平成5年1月14日(木) 13:10~16:50
会場 機械振興会館 6階65号室(所在地は前記参照)
議題

—13:10~16:50—

- (1) アクティヴインタフェースの研究 岡田孝文, 山本吉伸, 安西祐一郎(慶大)
〔概要〕 アクティヴインタフェースの概念とその自律移動ロボットインタフェースへの応用。
- (2) 遠隔協同故障診断における音声コミュニケーションの特徴 前川督雄, 浜田 洋(NTT)
〔概要〕 協同で行う故障診断の方策と, 対話の時間構造, コミュニケーションエラーとの関連の分析。
- (3) ワークステーションにおける音声認識インタフェースの検討 橋本秀樹(東芝ソフトウェアエンジニアリング), 永田仁史, 竹林洋一(東芝)
〔概要〕 メールやDTPシステムにおけるコマンド入力を音声認識で行う方法の設計と評価。
- (4) 三次元図形同異判定過程への描画法の影響 坂本忠明, 今宮淳美(山梨大)
〔概要〕 アイカメラを用いての心的回転実験による, 三次元図形の同異判定過程と描画の影響。
- (5) 多面体を用いた3次元形状デザイン手法 三輪道雄, 加藤昌央, 小山隆正(松下電器)
〔概要〕 3次元形状のデザインを4面体, 5面体, 6面体の変形および組合せを用いて行う手法の紹介。

◆ 第42回 情報システム研究会

(発表件数: 12件)

(主査: 上野 滋, 幹事: 高橋富夫, 槻木公一, 初瀬川茂)

日時 平成5年1月19日(火) 9:30~17:00
会場 機械振興会館 地下3階 2号室(所在地は前記参照)
議題 特集: リエンジニアリング技術

● 基調講演

- (1) リエンジニアリングの動向とその要件 竹下 亨(中部大)
〔概要〕 ソフトウェアの理解, 逆エンジニアリング, 構造化, 再開発などに関する技術の動向とツールへの要件。
- (2) リポジトリの標準化について 穂鷹良介(筑波大)
〔概要〕 ISOなどで進められているリポジトリの標準化について, その概要を紹介する。
- (3) ソフトウェア・リエンジニアリングにおける情報の構造と変換 高橋直久(NTT)
〔概要〕 ソフトウェアの理解, 改造に係わる情報の構造表現と変換について考察し, その基本技術を概観する。

● 一般発表

- (4) データ中心によるリエンジニアリングの方法 堀内 一(日立), 飯田啓三(オービス総研)
〔概要〕 データ中心手法により既存ソフトウェアから再利用可能なオブジェクトを抽出する方法について述べる。
 - (5) リエンジニアリングを活用した開発保守支援 関部正幸, 上原三八, 吉野利明, 直田繁樹, 秋山友子, 木村美奈子, 石崎あゆみ, 大久保隆夫
川辺敬子(富士通)
〔概要〕 リエンジニアリングを活用した, ソフトウェアのメンテナンswワークベンチについて報告する。
 - (6) プログラムの自動的な再構造化における限界とその解決法 四野見秀明, 藤井邦和, 牧野正士(日本IBM)
〔概要〕 プログラムの自動的な再構成後, より理解しやすい形式へとインタラクティブを修正する方法を提案。
 - (7) 問題領域指向リエンジニアリング —GUIソフトウェア— 中島 震, 小泉昌紀, 松本正雄(日電)
〔概要〕 プログラムの静的解析により画面フォーマット情報を復元する技術を中心に報告する。
 - (8) CAPSDFにおけるリエンジニアリング 津田道夫(日立)
〔概要〕 日立のリエンジニアリングツールの機能概要と評価。
 - (9) リエンジニアリング/リバースエンジニアリングとAD/Cycle 横田隆夫(日本IBM)
〔概要〕 IBMにおけるリエンジニアリング/リバースエンジニアリングの考え方と方法論および製品を紹介。
 - (10) リエンジニアリングのためのCASEツール 本村昭二(ケーステクノロジー)
〔概要〕 リエンジニアリングを実現するために必要なリバース・フォワード両CASEの機能を考える。
- 事例報告
- (11) データ中心によるプログラム論理の抽出 山川敦夫, 宮本信夫, 上林高治, 石本真希(オービス総研)
秋庭真一, 山村信幸(日立)
〔概要〕 リバース過程において, プログラムをオブジェクトに分解し業務ルールの抽出を行う方法の報告。

- (12) 信託銀行におけるリエンジニアリング 浅野惣一 (東洋信託銀行)
〔概要〕 金融機関の情報システムの保守効率向上を目的としたリエンジニアリングの実績について述べる。

◆ 第86回 人工知能研究会

(発表件数: 13件)

(主査: 石塚 満, 幹事: 沼尾正行, 松原 仁, 吉田裕之)

日時 平成5年1月20日(水) 13:00~17:30
1月21日(木) 9:10~12:30

会場 ATR 01会議室

〔京都府相良郡精華町光台2, 近鉄京都線: 高の原下車, ATR 行き専用バス(約20分). Tel. 07749 (5) 1111〕

議 題

1月20日(水)

- (1) 多重推論 本田悦朗(宮崎大), 田村進一, 佐藤嘉伸(阪大), 増山 博(鳥取大)
〔概要〕 曖昧であるが互いに独立である複数の根拠に基づいて行う推論。
- (2) 順序関係によって表現される時間概念の獲得法 岩佐英彦, 大川剛直, 馬場口登(阪大)
〔概要〕 イベントの発生や状態の遷移の順序関係によって表現される時間概念の獲得法について検討する。
- (3) 完全/不完全なルールに対する推論手続き 井戸譲治, 馬場口登(阪大)
〔概要〕 ルール形式で表現された完全/不完全な知識に対して, 導出に基づく推論手続きを提案する。
- (4) 領域知識内での構造写像を用いた動的概念の説明手法 細見 格, 荻野浩司, 上原邦昭, 前川禎男(神戸大)
〔概要〕 SMEを拡張することによって対話内容を考慮した過不足ない説明を与えるシステムについて述べる。
- (5) 典型性に基づく概念学習アルゴリズム 谷澤正幸, 上原邦昭, 前川禎男(神戸大)
〔概要〕 事例の統計的な情報からカテゴリの概念を形成し, 新たな事例を概念との距離をもとに分類する。
- (6) 事例を利用した意図認識手法 山岡孝行, 西田正吾(三菱電機)
〔概要〕 問題解決における意図・戦略の概念を定義し, 観察可能な状態と過去の事例から意図を推定する。
- (7) 複数簡約順序を扱う完備化手続き 近藤 久, 栗原正仁, 大内 東(北大)
〔概要〕 完備化手続きの発散を避けるために必要となる複数簡約順序のもとでの完備化を提案する。
- (8) インタリーブ・プランニングとその実験の評価 磯田佳徳, 山田誠二, 豊田順一(阪大)
〔概要〕 動的世界でのプランニングと実行のインタリーブによる問題解決全体のアルゴリズムと評価。

1月21日(木)

—9:10~10:40—

- (9) ルールベースを用いたシミュレーティド・アニーリングの高速化手法 野島晋二, 荒木 均, 加藤 等, 間藤隆一(松下電器)
〔概要〕 シミュレーティド・アニーリングのルールを用いた高速化手法の数学的背景を明らかにする。
- (10) 定性推論を利用した故障木作成方式 秋吉政徳, 西田正吾(三菱電機)
〔概要〕 対象の構造と構成部品の動作記述モデル・ライブラリから作成した定性モデルを用いた故障木作成方式。
- (11) Automatic Configuration of Hidden Markov Models 岩山 真, Nitin Indurkha, 元田 浩(日立)
〔概要〕 本報告では, リンク削除により HMM の構造を自動的に同定する方法を提案する。

—11:00~12:30—

- (12) 特別講演: NTT コミュニケーション科学研究所における AI 研究 (予稿なし) 中野良平(NTT コミュニケーション科学研究所)
〔概要〕 標記研究所の AI 研究が, AI 研究の歴史を踏まえ, 今後をどう展望して進められているかを概説する。
- (13) 招待講演: 高度情報通信と人工知能 —ATR における人工知能の研究— (予稿なし) 岸野文郎(ATR 通信システム研究所), 上野圭一(ATR 視聴覚機構研究所)
飯田 仁(ATR 自動翻訳電話研究所)

〔概要〕 ATR における情報通信の高度化に関する基礎的研究とその応用研究について概要を報告する。

*今回の研究会に引き続き同じ会場で電子情報通信学会(人工知能と知識処理研究会)と人工知能学会(知能ベース研究会)の合同研究会が22日まで開催されます。21日の午後には ATR と NTT の研究所の見学会が, 夜には合同懇親会も開かれますので参加ください。

◆ 第81回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数: 10件)

(主査: 杉原厚吉, 幹事: 井宮 淳, 尺長 健, 長谷川純一)

日時 平成5年1月21日(木) 10:00~16:30
会場 広島大学 総合情報処理センター 1階会議室

〔東広島市鏡山 1-4-1, JR(新幹線): 東広島下車, バス(広島大学経由八本松行き(本数僅少)): 大学会館前下車(約15分), または JR(在来線): 西条下車, バス(広島大学行): 大学会館前下車(約20分). Tel. 0824 (22) 7111 内 3441(寺内)〕

議 題

—10：00～12：00—

- (1) 曲面構造復元のためのテクスチャからの面パラメータ推定 小川直澄, 寺内睦博 (広島大)
- (2) 照明光の減衰を考慮した Shape from Shading—イメージスキャナを用いた書籍表面の三次元形状復元— 浮田浩行, 和田俊和, 松山隆司 (岡山大)
- (3) ズームステレオによる物体の前後判別 古川泰成 (阪大)
- (4) 画像原点推定のためのカメラキャリブレーション 金谷健一, 浦沢康二 (群馬大)

—13：00～16：30—

- (5) 招待講演：高度情報処理の展望 磯道義典 (広島大)
- (6) 動画像の 3-D コンピューティング 金谷健一 (群馬大)
- (7) 時系列差分画像を用いた複数移動物体の抽出および追跡 嶺 直道, 八木康史, 谷内田正彦 (阪大)
- (8) オプティカルフロー演算ハードウェアと移動体追跡への応用 平位隆史, 笹川耕一, 黒田伸一 (三菱電機)
- (9) 高速 Gaussian Edge 検出器 申 斗雨, 鄭 昊烈, 金 会珍, 崔 太永 (亞洲大・韓国)
- (10) マンモグラフィからの腫瘍形状抽出の一手法 竹下陽一, 寺内睦博 (広島大)

◆ 第90回 計算機アーキテクチャ研究会 } 合同 (発表件数：20件)
 ◆ 第65回 設計自動化研究会

ARC (主査：富田眞治, 幹事：後藤厚宏, 村上和彰, 矢野陽一)

DA (主査：上田和宏, 幹事：川戸信明, 河村匡彦, 佐藤政生)

日 時 平成5年1月21日(木) 10：00～17：50
 22日(金) 10：00～17：00

会 場 松下電器産業 技術館 2階 セミナールーム

[大阪府守口市八雲中町 3-15 (中央研究所構内), 地下鉄(谷町線)：守口(2番出口)下車, または, 京阪電車：西三荘下車, 徒歩15分. Tel. 06 (906) 4801]

議 題 特集：機能論理設計, ハイレベル合成, およびアーキテクチャ設計支援

1月21日(木) —10：00～12：00—

- (1) 可変成形ビーム描画装置用高速データ変換システムの開発 小山清美 (東芝)
[概要] CAD の設計データから階層処理と並列処理を使って高速で大規模メモリのマスク描画データを作る。
- (2) 不良組合せ回路の単一修正方法 伊藤雅樹, 高嶺美夫, 清水嗣雄 (日立)
[概要] 設計不良を含む組合せ回路を, 一カ所のみ変更することにより自動的に修正する方法を提案する。
- (3) 配置・配線を保守する論理回路の再設計について 藤田昌宏 (富士通研), 久木元裕治 (東大)
[概要] 配置配線を変更せず, ゲートの種類の変更のみで新しい仕様に合せる設計手法について述べる。
- (4) A Secondary Storage Oriented Breadth-First Algorithm for Manipulating Very Large SBDD's 越智裕之, 安岡孝一, 矢島脩三 (京大)
[概要] 本手法により, 主記憶上に格納できない巨大な共有二分決定グラフを扱うことが可能となった。

—13：00～17：50—

- (5) 三分岐判定図を用いた主項の生成法について 笹尾 勤, 甘田哲久 (九工大)
[概要] 三分岐判定図を用いて主項を高速に求める方法を開発した. MCNC ベンチマーク実験結果を示す。
- (6) 論理関数の LP 特徴ベクトルとその AND-EXOR 論理式簡単化への応用 神田徳夫 (徳山高専), 笹尾 勤 (九工大)
[概要] 論理関数の LP 特徴ベクトルを用いて, LP 同値類の代表関数を効率良く求める方法を示す。
- (7) 2分決定グラフを用いた推移的閉包計算アルゴリズムと形式的検証への応用 松永裕介, 藤田昌宏 (富士通研), Patrick C. McGeer (カリフォルニア大)
[概要] 推移的閉包を計算する再帰アルゴリズムの BDD を用いた実装と, それに基づく形式的検証手法。
- (8) 再帰帰納法を用いたプロセッサの形式検証手法の検討 庄内 亨, 清水嗣雄 (日立)
[概要] 従来の数学的帰納法に代って再帰帰納法を用いる計算量の少ない関数型言語での形式検証手法を提案。
- (9) メモリ割り付け制約を考慮したスケジューリング手法 池田充郎, 宮崎敏明 (NTT)
[概要] 従来議論されていない入力変数のメモリへの割り付けを考慮したスケジューリング手法を提案。
- (10) グラフィック入力による動作機能設計の一手法 松本道弘, 高井裕司, 岩崎知恵, 村岡道明 (松下電器)
[概要] 当社で開発中の RT レベルグラフィック入力システムの紹介と実チップデータへの適用結果の報告。
- (11) プロトコル記述言語を用いた上位合成手法 小林哲雄, 宮崎敏明, 星野民夫 (NTT)
[概要] プロトコル仕様記述言語 SAL からの段階的仕様追加による機能合成手法を提案。

(12) データバス情報を用いた上位合成手法 崎崎敏明 (NTT)
 [概要] 予め与えたデータバス情報をもとに動作仕様を満たすハードウェアを合成する手法を提案。

(13) 専用システムのための HW/SW 協調再設計の一手法 中村秀一, 安浦寛人 (九大)
 [概要] 汎用のプロセッサとプログラミングによる仕様記述から HW/SW 協調設計を行う手法を提案する。

1月22日(金) -10:00~12:00-

(14) 計算機工学教育用 DLX 風マイクロプロセッサの開発構想 諸富 聡, 村上和彰, 安浦寛人 (九大)
 [概要] DLX の命令セットに基づき, HW/アーキテクチャ/SW の講義/実験/演習に適したプロセッサ。

(15) アーキテクチャ評価用ワークベンチ -コンパイラの自動生成- 赤星博輝, 安浦寛人 (九大)
 [概要] アーキテクチャに適したコンパイラを自動生成する部分の実現について述べる。

(16) 計算機アーキテクチャ記述言語 CARD-1 高橋雅史, 小林広明, 中村維男 (東北大)
 [概要] 計算機アーキテクチャの検証と性能評価のための言語について述べる。

(17) イベント対応型キャッシュ・コヒーレンス制御方式の応用事例とその基本性能
 齋藤秀樹, 森眞一郎 (京大), 城 和貴, デビッド・フレイザー, 田中高士 (クボタ), 富田眞治 (京大)
 [概要] 既に報告した ECC の新たな利用方式を提案し報告済みのものと併せて基本性能についても述べる。

-13:00~17:00-

(18) 招待講演: 超高性能 RISC マイクロプロセッサチップのアーキテクチャ (The Architecture of PA-RISC Processor Chip) Michael Mahon (Hewlett-Packard)

(19) ロータリ型コンピュータ 身次 茂 (電子応用機械技術研究所)
 [概要] 仮想回路を用いて, データ駆動方式をより忠実に実現するアーキテクチャを提案する。

(20) 32-bit マイクロプロセッサ V810 の設計手法 鈴木宏明, 鈴木千佳, 木村晃子 (日電)
 佐藤庄一郎, 井手秀一, 坂中康秀 (NEC アイシーマイコンシステム)
 [概要] 32-bit マイクロプロセッサ V810 の設計手法と CAD 環境について述べる。

(21) パネル討論: アーキテクチャ設計に CAD は有効か? 司会: 安浦寛人 (九大)
 パネリスト: 遠藤忠男 (物理システムテクノロジー), 大鶴祥介 (YHP)

小栗 清 (NTT), 若林一敏 (日電)

*懇親会: 21日の研究会終了後に予定しています。奮ってご参加ください。(会費4,000~5,000円)。

*見学会: 22日9:00~, 松下電器技術館を予定しています(所要約1時間, 説明員の方がついてくださいます)。

*懇親会, 見学会ともにご参加なさる方は下記連絡先にご一報ください。

連絡先 169 新宿区大久保 3-4-1 早稲田大学 理工学部 電子通信学科 佐藤政生
 Tel. 03 (3203) 4141 (内 73-3428) FAX 03 (3200) 2567 (理工学部事務室) e-mail: sato@sato.comm.waseda.ac.jp

*IEEE Computer Society Tokyo Chapter 協賛 (ARC), 電子情報通信学会 (VLSI 設計技術研究会) との共催 (DA) で開催されます。

◆ 第69回 記号処理研究会

(発表件数: 5件)

(主査: 竹内郁雄, 幹事: 天海良治, 多田好克, 湯浦克彦)

日時 平成5年1月22日(金) 10:20~16:45

会場 日本電気 本社 地下1階多目的ホールII

(東京都港区芝 5-7-1, JR: 田町下車, 徒歩5分 (1階に研究会用受付を設置します). Tel. 03 (3454) 1111)

議題

-10:20~12:00-

(1) アダプティブ・ガーベッジ・コレクションの実現のための実験報告 高岡詠子, 中西正和 (慶大)
 [概要] アプリケーションに応じた GC の提案と, その GC の実現のための実験報告を行う。

(2) Common Lisp の多重プロセス化と離散系シミュレータへの応用 関口知紀, 山本 強 (北大)
 [概要] HCL の擬似マルチプロセス機構を用いた Virtual Time によるイベントシミュレータ

-13:00~15:30-

(3) future ベースの並列 Scheme における継続の拡張 小宮常康, 湯浅太一 (豊橋技科大)
 [概要] future 構文に基づく並列環境に適合するように Scheme の継続機能を拡張することを提案する。

(4) ヒープを使用する論理型言語でのトレール方式 山崎憲一, 天海良治, 竹内郁雄, 吉田雅治 (NTT)
 [概要] Prolog 等では構造データをスタックに置くが, これをヒープに置く方法について述べる。

(5) 並列 GC Lisp の UNIX 上への実装と評価
 松井祥悟 (神奈川大), 田中良夫, 前田敦司, 高橋尚子, 中西正和 (慶大)

[概要] 並列 GC 型 Lisp を SUN OS と MACH 上に実装した。その経過と評価について報告する。

*見学: 15:45~16:45, 日本電気本社ビルを予定しています。

◆ 第25回 コンピュータと教育研究会

(発表件数：5件)

(主査：一松 信，幹事：三好和憲，矢野米雄，吉田瑞穂)

日時 平成5年1月22日(金) 13:00~16:40

会場 工学院大学 新宿校舎 28階 第4会議室

[東京都新宿区西新宿 1-24-2, 新宿(西口)より徒歩4分, Tel. 03 (3342) 1211]

議題

- (1) 図を用いた問題解決のための学習環境について 左右田東虎，柏原昭博，平嶋 宗，豊田順一(阪大)
[概要] 図形を動かすことができる環境の下で学習者が行う問題解決を支援する手法について述べる。
- (2) GA 的アプローチによる進路指導の支援 小林元之，江澤義典(関西大)，平嶋 宗，豊田順一(阪大)
[概要] 学生の進路志望の推移とその方向性の探索を含めた進路指導に対する支援について報告する。
- (3) オブジェクト指向による高度個別型 CAI の概念設計モデルについて
富士 隆，谷川 健，星原健二郎，伊藤佐智子，小銭正尚(SRL)，三枝武男(北海道情報大)
[概要] 学習者の個別化対応の視点から，次世代 CAI の要求分析を行い概念設計モデルとして提案する。
- (4) 数式処理言語を用いた計算機教育 牧野潔夫(工学院大)
[概要] 多倍長，数式処理等通常の計算機言語に含まれない仕様を生かした計算機教育について述べる。
- (5) 日韓作文演習用知的 CAI における文法の類似性を用いた誤文解析及び指導戦略
李 圭建，白井克彦，小原啓義(早大)，小西達裕(静岡大)，高木 朗(CSK)
[概要] 日韓作文演習用知的 CAI における両国語の文法の類似性を用いた誤文解析および指導戦略を提案する。

◆ 第31回 アルゴリズム研究会

(発表件数：6件)

(主査：五十嵐善英，幹事：浅野哲夫，白石洋一，平田富夫)

日時 平成5年1月25日(月) 13:30~17:00

会場 東芝科学館 2階 A・Bホール

[川崎市幸区小向東芝町 1, JR または京浜急行：川崎(東口・地下出口10・11番)下車，バス(26番乗場)：川崎営業所行，溝の口行，市民ミュージアム行，またはバス(27番乗場)：五反田行のいずれかで小向^{こむかい}交番前下車(約10分)，東芝・研究開発センター正門より入門，右手奥。Tel. 044 (511) 2300]

議題

- (1) Spanners of Binary Jumping Networks
Tom Altman(コロラド大)，Yoshihide Igarashi，Koji Obokata(群馬大)
[概要] 無向2進ジャンピング回路網のいくつかの限られた大きさのスパナの構成方法を示す。
- (2) 探索木を用いた優先順位付き割当問題のための近似解法 錦織昭峰(広島県立大)
[概要] 優先順位を考慮して割当問題の実行可能解を求めるために，探索木を用いた近似解法を提案する。
- (3) 3次元点集合の合同性を判定する並列アルゴリズム 阿久津達也(機械技術研)
[概要] CRCW-PRAM 上での $O(n)$ プロセッサ， $O(\log^{**}3n \log^*n)$ 時間アルゴリズムを示す。
- (4) 純リスプに基づいた頭語的評価関数 鎮目浩輔(情報大)
[概要] アルゴリズムの複雑さの理論で Chaitin が用いた頭語的評価関数の欠陥を指摘し，修正する。
- (5) Optimal and Approximate Digital Halftoning Algorithms and Their Experimental Evaluation
T. Asano, A. Hasegawa(大阪電通大)，D. Ranjan(MPI, Germany)
T. Roos(ETH, Switzerland)
[概要] デジタルハーフトーニング問題を数学的最適化問題として定式化し，その最適解を求める。
- (6) 国際会議 FOCS 92 報告(予稿なし) 加藤直樹(神戸商大)，岩野和生(日本IBM)
[概要] 国際会議 IEEE Symposium on Foundation of Computer Science の報告を行う。

◆ 第10回 プログラミングー言語・基礎・実践ー研究会

(発表件数：16件)

(主査：安村通晃，幹事：久世和資，萩谷昌己，松岡 聡)

日時 平成5年1月28日(木) 13:00~18:00

29日(金) 9:30~16:30

会場 富山県立大学 総合研究所

[富山県射水郡子杉町黒河，JR：富山下車，北陸本線：小杉(富山駅から2つ目)下車(南口)，徒歩15分。Tel. 0766 (56) 7500 内 776(松永)]

議題

1月28日(木)

(1) 抽象的データに対する直接操作インタフェースの例による実現

宮下 健, 松岡 聡, 高橋 伸, 米澤明憲 (東大)

〔概要〕 抽象的データに対する直接操作インタフェースを, 視覚的例によって実現する。

(2) 構造化オブジェクトの視覚的プログラミング

二木誠司, 松田芳樹, 藤原ひろみ (日立)

〔概要〕 視覚化されたリスト, 配列等の構造データに対する例示操作からのプログラム生成について述べる。

(3) 鼎(かなえ)インタフェースビルダ「ゆず」

杉山高弘 (日電)

〔概要〕 GUI 構築環境鼎の部品を対話的に設計し, プログラム自動生成する「ゆず」の機能と実装方法を報告。

(4) データ構造の視覚化プログラミング

森島 裕 (日本IBM)

〔概要〕 モデル内の抽象データ構造を視覚的に操作できるようにした図形エディタについて述べる。

(5) アルゴリズム・アニメーション用ツールキットの構築

和田裕二 (富士通)

〔概要〕 図形の変身機能・複数の図形の並列描画機能・描画の巻戻し機能などを持つツールキットを提案する。

(6) アニメーション作成ツール CBAD における例図による action 定義について

笹倉万里子, 満田成紀, 岩間憲三 (京都高度技術研究所)

〔概要〕 ユーザが例図で与えた登場人物の動きを一般化するための問題点と解決案について議論する。

(7) 拡張可能な C++ ソースコードブラウザのグラフィカルユーザインタフェース

大平 剛, 三ツ井欽一 (日本IBM)

〔概要〕 拡張可能な C++ ソースコードブラウザ GUI 部のデザイン, 実現方法, 拡張性について述べる。

1月29日(金)

— 9:30~12:10—

(8) 共有空間通信を利用したグループワークシステムの構築

増井俊之, 花田恵太郎 (シャープ)

〔概要〕 並列処理プリミティブ Linda を拡張したモデルで CSCW システムを容易に実現できることを示す。

(9) 分散環境のための言語系 DeLis

三石 大, 布川博士, 宮崎正俊, 野口正一 (東北大)

〔概要〕 分散システム上の各種サービスを統合し環境として提供するための言語系の設計および実装。

(10) MUMIN システムにおけるマルチメディアモデル

富永浩之, 服部隆志 (京大), 柴山悦哉 (龍谷大)

〔概要〕 マルチメディア UI 管理システム MUMIN におけるメディアおよびデータのモデルについて報告する。

(11) ページ記述言語におけるプログラム変換

伊知地宏, 窪寺隆行, 森田雅夫 (富士ゼロックス)

〔概要〕 Interpress を Post Script に変換する技法と変換プログラム ip2ps について述べる。

—13:10~16:30—

(12) アイコンシステムのためのオブジェクト作成ツールの開発

山口真悟, 西村世志人, 田中 稔 (山口大)

〔概要〕 アイコンをより小さな粒度のリソースの複合オブジェクトとして実現する方法について述べる。

(13) ユーザインタフェースデザイン評価支援ツール SimUI の試作

来住伸子 (津田塾大)

〔概要〕 ユーザ操作記録の再生および視覚化を利用したデザイン評価ツールの紹介。

(14) 制約による描画システムとそのユーザインタフェース

大野敬史, 佐渡一広 (群馬大)

〔概要〕 容易な描画を支援するために, 関係による図形記述の方法を取り入れたシステムについて述べる。

(15) 視覚的プログラミングによる GUI プログラムの生成

倉部 淳, 伊知地宏 (富士ゼロックス)

〔概要〕 GUI の制約を論理型言語で表現し, 視覚的にプログラミングできる可能性について述べる。

(16) ユーザ入力のパターンを用いた GUI の記述と実装

北山文彦 (日本IBM)

〔概要〕 質の高い GUI を記述・実装するための枠組としてパターン駆動の概念を提唱しその有効性を議論する。

◆ 第59回 マルチメディア通信と分散処理研究会

(発表件数: 11件)

(主査: 河岡 司, 幹事: 滝沢 誠, 寺中勝美, 水野忠則)

日 時 平成5年1月29日(金) 9:30~17:00

会 場 三菱電機 情報電子研究所

〔鎌倉市大船5-1-1, JR(東海道線, 横須賀線, 京浜東北線): 大船(東口)下車, 徒歩10分. Tel. 0467(44)9084〕

議 題

—9:30~12:00—

(1) XTP プロトコルにおけるレート制御機構の評価

三宅 優, 石倉雅巳, 鈴木健二 (KDD)

〔概要〕 高速ネットワーク通信でのレート制御機構の有用性を, シミュレーション等を通じて評価を行う。

(2) 適合性試験システム ACTS の開発とその実行評価

高橋健一, 似内 聡, 後藤邦弘, 石幡吉則 (AIC), 高橋 薫 (東北大)

〔概要〕 適合性試験を統合的に実施できる ACTS を開発したので, その開発結果, 実行例, 評価を述べる。

(3) 適合性試験システム ACTS における試験スイートの開発

似内 聡, 高橋健一, 後藤邦弘, 石幡吉則 (AIC), 高橋 薫 (東北大)

- 〔概要〕 TTCN で記述した抽象試験スイートと、状態遷移表形式の実行型試験スイートの使用について述べる。
 (4) 高速 OSI ディレクトリの実装と評価 西山 智, 小花貞夫, 堀内浩規, 鈴木健二 (KDD)
 〔概要〕 拡張可能 DBMS をベースとする高速な OSI ディレクトリの実現方法と評価を示す。
 (5) 日本インターネットの AS への分割について 山本和彦 (九大), 平原正樹 (東大)
 〔概要〕 日本インターネットを AS に分割する動機を明らかにし、その時に生じると考えられる問題を考察する。
 -13:30~17:00-

- (6) 分散型マルチメディアプラットフォーム DEMPO の実現 宗森 純, 吉野 孝, 長澤庸二 (鹿児島大)
 〔概要〕 ネットワーク管理システム, 3次元デスクトップ, 電子会議, データベースからなる DEMPO を開発。
 (7) 実画像通信の可能性を探って 一空間型共同作業支援システム: SharedView— 葛岡英明 (筑波大)
 〔概要〕 人間の視覚的な行動を考察しながら、実画像通信が共同作業支援に果たすことのできる役割を探る。
 (8) Knowledge-awareness 指向のノウハウ伝播支援環境: CATFISH 山上俊彦, 関 良明 (NTT)
 〔概要〕 動的にノウハウを再構成し、伝播過程のグループ内認知を高める実験環境 CATFISH を報告する。
 (9) 分散環境におけるリジューム機能 上坂 靖, 高橋祐亮 (松下電器)
 〔概要〕 従来の、スタンドアロン環境でのみ提供されたリジューム機能を分散環境に応用する。
 (10) リアルタイム CSCW システムにおけるアプリケーション間データ交換の問題と対策 石崎健史, 森賢二郎, 亀田正美 (日立)
 〔概要〕 ローカル AP と共同実行 AP との間でデータ交換を行う時に生じる問題を検討し、その解決案を示す。
 (11) 分散協調機構 Noah (Network oriented applications harmony) の提案 小塚 宏, 佐藤文明, 宮崎一哉, 福岡久雄 (三菱電機)

〔概要〕 自律的なアプリケーション間の協調を柔軟に行うための分散協調アーキテクチャを提案する。
 *今回の研究会は、第4回グループウェア研究グループ研究発表会(主催:松下 温, 幹事:岡田謙一, 守屋康正, 山上俊彦)と合同で開催されます。
 *研究会終了後、懇親会を予定していますので奮ってご参加ください。

◆ ソフトウェア工学研究会

第91回 研究会の発表論文を下記のとおり募集いたします。奮ってご応募ください。

日 程 平成5年3月2日(火)
 会 場 機械振興会館
 発表申込締切 平成4年12月下旬

◆ 計算機アーキテクチャ研究会

第91回 研究会を下記のとおり開催いたします。多数の発表申込、および参加をお待ちしています。

日 程 平成5年3月11日(木) 13:30 ~ 12日(金) 17:00
 会 場 KKR 定山溪 青ラン荘 (札幌市南区定山溪温泉西 3-75, Tel. 011 (598) 2101)
 議 題 特集: 実時間処理に関するワークショップ (RTP '93), および一般

発表申込締切 平成5年1月11日(月)

発表申込方法 研究発表申込書の様式で、発表題目、発表者名、略称所属、概要(46字以内)、発表申込者連絡先(住所、氏名、Tel, FAX, e-mail)をご記入のうえ、下記連絡先宛、電子メール、FAX、または郵送で直接お申し込みください。なお、できるだけ電子メールでお願いいたします。

連絡先 305 つくば市梅園 1-1-4 電子技術総合研究所 計算機方式研究室 戸田賢二
 e-mail: toda@etl.go.jp FAX 0298 (58) 5882 Tel. 0298 (58) 5875

宿泊案内 3月11日夜~13日夜の宿泊枠を特別料金(1泊2食7,500円)で、KKR 定山溪に1月11日まで確保しています。予約は、KKR 定山溪宛に、「RTP '93参加者」の旨を添えて直接お申し込みください。なお、原則として3~4名の相部屋となりますので、グループの方はグループでまとめてお申し込みください。また、お一人の場合は、部屋割の際の参考としますので、「喫煙/非喫煙」をご指定してください。

*IEEE Computer Society Tokyo Chapter 協賛, 電子情報通信学会(コンピュータシステム研究会)と共催

*研究会に発表申込希望者は研究会発表申込書(8月号本欄未添付)を事務局研究会係までご送付ください。

◆ グラフィクスと CAD 研究会

「グラフィクスと CAD 文献データベース：1991」配布のお知らせ

本研究会では1988年より、グラフィクスとCADに関連する文献のデータベース化を行っています。今回1991年に国内外で発行された約60種の学会誌、論文誌等から、グラフィクスとCADに関連する文献情報約1,000件を収録した『グラフィクスとCAD文献データベース：1991』を作成しましたので、会員の皆さまに配布いたします。

申込締切 平成5年2月15日(月)(先着100名限り)

配布要領 『文献DB配布希望』、送付先の住所、氏名、電話番号、FAX番号と申込者の会員番号を明記し、実費1,000円を同封のうえ、現金書留で下記までお申込みください。

*配布はMS-DOSのフロッピーディスク(5インチ2HD(1.2MB))で行います。

申込先 101 東京都千代田区神田錦町2-2 東京電機大学 工学部 電気通信工学科 村上伸一
Tel. 03 (5280) 3334 FAX 同左(自動切り換え)

◆ 第3回 グループウェア研究グループ研究会

(発表件数：11件)

(主査：松下 温，幹事：岡田謙一，守屋康正，山上俊彦)

日時 平成4年12月17日(木) 13:00~17:55

18日(金) 9:00~10:45

会場 鹿児島大学 工学部 会議室(管理棟3階)

(鹿児島市郡元1-21-40, 鹿児島空港からリムジンバス(西鹿児島または鴨池新港行): 西鹿児島下車, 市電(郡元行): 工学部前下車, 徒歩3分, Tel. 0992 (54) 7141 内4503)

議 題

12月17日(木)

- (1) 設計者間のコミュニケーション構造モデルの一考察 村上裕子, 桑名米二 (NTT)
- (2) オフィスにおけるグループ協調作業支援の整理
稲森紘一, 安藤 均, 南 陽, 堀川章人 (NTT), 岸本陽次郎 (日大)
- (3) 人間のふるまいは情報によって左右される —メタ情報の提案—
工藤浩志, 江谷典子 (富士ゼロックス情報システム)
- (4) 作業の多重性に着目した協調作業支援 塚田晃司, 岡田謙一, 松下 温 (慶大)
- (5) 遠隔での共同作業におけるマルチメディア通信の効果
小幡明彦 (富士通研), ロバートフィッシュ, ロバートクラウト (ベルコア)
- (6) ソフトウェア分散開発支援システム D² 貫井春美, 松尾 朗, 太田哲生, 佐波公夫 (東芝)
- (7) KJ法を用いた対面同期型会議のグループワークモデルに関する一考察
桂林 浩, 榊原正義, 鈴木敏克, 三宅英太 (富士ゼロックス)
- (8) 電子会議における発言間の関係についての一考察 渡辺 理 (富士通研)

12月18日(金)

- (9) 協同作業のためのウィンドウ共有ツール 平岩真一 (富士通研)
- (10) 発想支援グループウェア郡元の学生実験への適用 宗森 純, 堀切一郎, 長澤庸二 (鹿児島大)
- (11) 雑談機能付き電子会議の開発とその適用 宗森 純, 堀切一郎, 長澤庸二 (鹿児島大)

*懇親会: 12月17日(木)の研究会終了後に予定しております。

*見学: 12月18日(金)の研究会終了後、鹿児島大工学部情報工学科の発想支援グループウェア郡元を予定しております。

◆ 第6回 テクニカルコミュニケーション研究グループ研究会

(発表件数：3件)

(主査：山田尚勇，幹事：牛島和夫，空閑茂起，福島敏高)

日時 平成5年1月27日(水) 13:30~17:00

会場 機械振興会館 地下3階 研修2号室(所在地は前記参照)

議 題

- (1) 早稲田大学理工学部情報学科での技術文書構成論の教育の例 村岡洋一 (早大)
- (2) 心のダイナミクスに基づく物語の生成 遠藤 勉 (大分大)
- (3) 構造化文書の文脈情報に基づく文書操作システム 中津山恒 (富士ゼロックス)

参加費 年間登録者無料 (未登録者): 2,000円

問合せ先 福島, 杉田 (富士通) Tel. 03 (3216) 9725 FAX 03 (3215) 5987

「音楽情報科学研究会」発足のお知らせ

目 的

音楽は、永年、人間の多くの文化的活動の場において、種々の情報を伝達・表現するために使われてきた。計算機の誕生は、特に音楽の表現手段の可能性を広げることに貢献した。実際、計算機を利用して音楽を制作・創作する試みは古くからあり、自動作曲、楽音合成などに使用されている。同時に、音楽は人間の最も基本的かつ高度な精神活動の一つであり、知識処理の対象としても大変魅力的である。音楽情報の電子化、計算機を用いた音楽分析、記号処理としての音楽情報処理という分野も生じてきた。これら計算機と音楽をさまざまな角度で組み合わせた研究の流れは、計算機の技術革新に支えられて、最近とみに加速されてきている。このような背景から、現在の計算機と音楽に関連した研究領域は大きく二つに分けられよう。一つは計算機を利用した音楽の制作・創作、もう一つは音楽的に知的な振る舞いをする計算機システムに関する研究である。

計算機を音楽の制作・創作に用いる研究にとってもハードウェアの高速化、小型化、大容量化のもたらす恩恵は大きい。以前は、音楽制作・創作に使用するのに耐え得る性能を持つ計算機は非常に高価なものであった。しかしワークステーションの普及にともない、身近な計算機でも十分機能するようになり、多くの研究者、音楽家をこの分野に参入させることとなっている。また、知識処理技術の進歩、多くのプログラミングパラダイムの提案、効率の良い言語処理系の開発などにより、記号処理としての音楽情報処理が、計算機科学の中の1研究分野として今まさに誕生しつつある。そして計算機技術の有効性を実証するための応用分野として、音楽的に知的な振る舞いをするシステムはより多くの研究者、音楽家、企業の興味を引き付けるようになってきた。さらに新しい未知の研究領域が開拓される可能性もある。

このような下地が多くの研究者により培われてきているにもかかわらず、意見交換や議論の場は多いとは言えなかった。情報処理関係者の間だけでなく、音楽関係者とのつながりをもっと大切にしたいという声がある。このような理由から本研究会は、自由で活発な探求心をもった会員が、計算機と音楽双方の分野から既存の枠組の壁を越えて議論、検証する場を提供し、音楽情報科学という研究分野を確立し、さらに深く掘り下げる土台となることを目的として、平成5年度から発足する運びとなった。多数の会員の参加と積極的な研究活動を期待するものである。

主な研究分野

計算機技術と音楽双方に関連した領域からコンピュータ音楽の制作までの広い範囲を含む。具体的には、

1. 計算機の介在した作曲、編曲、演奏、伴奏、
2. 電子楽器とその周辺技術、
3. 音/音楽信号の処理、解析、合成
4. AIと音楽、
5. 音楽の認知、知覚および感性情報の処理、
6. 音楽に関する教育システム、
7. 楽譜処理（印刷、読み取り等）、
8. 音楽システムのハードウェア技術、ソフトウェア技術、
9. 音楽理論の計算機システムへの応用、音楽学への計算機システムの応用、
10. 音楽芸術と計算機技術、
11. 他分野との関連領域（マルチメディア、仮想現実）

提 案 者（五十音順）

青柳龍也（電通大）	阿部純一（北大）	有山正孝（電通大）
安藤由典（九州芸術工科大）	五十嵐滋（筑波大）	井口征士（阪大）
今井正和（阪大）	大照 完（早大）	大矢健一（長野工業高専）
岡謙太郎（大日本印刷）	岡 雅章（河合楽器）	納本 淳（三菱化成）
小坂直敏（NTT）	柏野邦夫（東大）	片寄晴弘（イメージ情報科学研）
川野 洋（長野大）	金城 厚（沖縄県立芸術大）	久万田晋（沖縄県立芸術大）
神前尚生（尚美学園短大）	小谷善行（農工大）	才脇直樹（阪大）
坂崎 紀（聖徳学園短大）	嶋津武仁（福島大）	志村 哲（大阪芸術大）
鈴木 孝（東京工業高専）	高澤嘉光（電通大）	高田正之（江戸川大）
田口友康（甲南大）	田中英彦（東大）	田中穂積（東工大）
棚橋純一（富士通研）	田辺義和（ローランド）	坪井邦明（浜松職業訓練短大）
中澤達夫（長野工業高専）	中西正和（慶大）	中村 勲（帝京技科大）
中村滋延（京都芸術短大）	長嶋洋一（河合楽器）	西嶋正子（富士通研）
野瀬 隆（農工大）	橋本周司（早大）	半沢耕太郎（カシオ計算機）
平賀 譲（情報大）	平田圭二（ICOT）	藤森潤一（ヤマハ）
瀧野 昌（ベルリン自由大）	堀内靖雄（東工大）	松島俊明（東邦大）
増井誠生（富士通研）	三好和憲（工学院大）	武者利光（東理大）
村尾忠廣（愛教大）	村上栄子（ローランド）	森 光彦（浜松職業訓練短大）

「オーディオビジュアル複合情報処理研究会」発足のお知らせ

目 的

本研究会は、人間に最も優しい情報処理・通信・インタフェースを求めて研究活動を進めるもので、画像信号処理、HDTV 信号・システムの活用、高品質音声処理・音場処理等をスタートとして、マルチメディアの有機的・総合的活用を実現するハイパメディア場への進展を積極的にサポートするものである。これらの研究現状はすでに実用化に近いものから、まだ萌芽状態にあるものなど幅広く、これらの分野にかかわりの深い研究会との協調を持ちながら、本研究会で適切な課題設定をもって研究紹介の効率化をはかり、実用から最先端までの研究者の積極的交流の場とすることにより、技術進歩の加速をはかることが大きな目的である。

特に、国際的な環境においては ATN・HDTV を中心に据えた B-ISDN に向けた信号処理・通信・サービスに関する国際標準化さらにはマルチメディア・ハイパメディアに関する国際標準化等の活動の裏付けとなるために、オリジナルなアイデアや研究成果をできるだけ促進する方向で報告・討論できる場として本研究会の存在が重要な意味を持っている。標準化にかかわる正式の活動は、情報処理学会情報規格調査会が国際事務局という大役を担って平成3年11月に発足した ISO/IEC JTC1/SC29 が行っている。SC29 は JBIG (2 値画像符号化)、JPEG (静止画符号化)、MPEG (動画符号化)、および MHEG (マルチメディア & ハイパメディア符号化) を検討中であり、中には DIS 投票レベルに進んだものも出始めている。これら標準化への貢献はわが国としての責務であり、知的所有権を確保しながら標準化への貢献をはかるためには同様な研究分野を持つ研究会等の公式の発表の場が情報処理学会に必要である。

このような理由から、本研究会を平成5年度から発足させることになった。多数の会員の参加と積極的な研究活動を期待するものである。

主な研究分野

人間に最も優しい情報処理・通信・インタフェースを求めて、下記の分野で研究活動を行う。

1. 画像信号処理, HDTV 信号・システム
2. 高品質音声処理・音場処理
3. メディアを相互に関連付けるハイパメディア技術・システム
4. B-ISDN, マルチメディア, ハイパメディアの国際標準化
(具体的には, JBIG, JPEG, MPEG, MHEG, IVS, H.261, HYTIME, SGML 等の関連分野)

提 案 者 (五十音順)

相磯秀夫 (慶大)	青木由直 (北大)	大村皓一 (大阪学院大)
小野欽司 (KDD)	笠原正雄 (京都工繊大)	加藤康雄 (日電)
釜江尚彦 (NTT)	坂井利之 (龍谷大)	酒井善則 (東工大)
白井克彦 (早大)	杉本昌穂 (バイオニア)	高梨裕文 (富士通)
辻井重男 (東工大)	寺田浩詔 (阪大)	富永英義 (早大)
鳥脇純一郎 (名大)	中島昌也 (松下技研)	西 和彦 (アスキー)
二宮佑一 (NHK)	原島 博 (東大)	藤本正熙 (日本ビクター)
藤原 洋 (ジーシーテクノロジー)	宮岡千里 (ソニー)	宮原 誠 (北陸先端大学院大)
村上伸一 (電機大)	村上仁己 (KDD)	安田 浩 (NTT)
安田靖彦 (早大)		

「グループウェア研究会」発足のお知らせ

目 的

1980年代における高速ネットワークとパーソナルコンピューティングの進展によって、情報処理はいよいよ単体での処理から組織やタスクを志向したトータルな情報処理環境への進展を迎えようとしている。今後は技術の進歩とともに複数の利用者が相互に協力しながら作業を行うシステムへの基礎および実用両面からのアプローチが望まれる。グループウェアとは人間の協調行動、組織行動、チームワークを情報処理の観点から支援する技術分野であり、1980年代のおわりにかけて重要な新規テーマとして確立された。人間の作業は共有され、組織化されて初めて意味を持ち、社会に貢献しえる。しかし、このような総合的組織作業の支援は、単なるハードウェア、ソフトウェアのみならず、人間の社会行動全般にわたる深い理解なしでは到底なしとげることはいできない。

このような分野への研究は、確立されてからまだ日は浅いながら、組織科学、行動科学、通信処理、情報処理、分散協調、複数の利用者のユーザインタフェース、認知科学、人工知能など多岐にわたって精力的に研究がなされているところである。単に学術研究における議論の進展にのみならず、フレックスタイムや分散オフィス、在宅勤務など、社会における組織の流動化、社会的資源としての労働者の人的資源の有効利用、タイムシフト/スペースシフト/ストラクチャシフトなど物理的制約にしばられない形での柔軟な労働形態の進展、などさまざまな形でのより快適で効率的な共同作業ニーズの拡大により、本技術分野に対する社会的ニーズは1990年代にはますます拡大しているものと考えられる。本学会での研究会の取り組みが、協調行動と情報処理との相互関係を明かにし、より集団によっても使いやすい利便性の高いシステムの実現に向うことは、本当の意味での高度な情報処理研究の黎明として意義がある。

本研究会では、適切な課題設定をもって研究紹介の効率化をはかり、実用から最先端までの社会科学、情報工学、心理学など幅広い研究者の積極的交流の場とすることにより、技術進歩をはかるとともに人間の協調とはどのようなものなのかという永遠の真理に迫ることを目的とする。単に技術にとどまることなく、技術と集団が相互に関係しながら進化していく過程を文化的にもとらえ、21世紀の高度情報通信社会を人間にとって真に価値あるものにするための科学と技術成果の創造に向けて努力する予定である。さらにグループ協調支援においては、その文化的背景とシステム化が注目されている。国際的にも、注目される東洋的グループウェア、意思決定、組織運営に着目した研究成果のアピールも積極的に行うとともに、アジアの協調行動研究の中核としての礎となるような活動を意識していく。多数の会員の参加と積極的な研究活動を期待するものである。

主な研究分野

- 協調行動支援基礎（協調行動支援設計、情報共有環境、知的協調分散、言語行為理論、グループ生産性の評価、グループ行動支援ベース）
- 会議支援（グループ意思決定支援、コンピュータ会議、グループ発想支援、設計支援、マルチユーザインタフェース）
- オフィス支援（知的メッセージング、組織情報通信、分散オフィス、移動オフィス）
- 組織理論および社会心理学的グループ支援（社会行動理論、社会心理学、組織ネットワーク、アメニティ）
- グループアプリケーション（グループソフトウェア開発管理、グループ執筆支援、スケジュール管理、プロジェクト管理）

提 案 者（五十音順）

相磯秀夫（慶大）	荒木啓二郎（九大）	石井 裕（NTT）
石田晴久（東大）	石野福弥（NTT）	上野元治（東芝）
宇津宮孝一（大分大）	浦野義頼（KDD）	岡田謙一（慶大）
奥山一幸（東芝）	小野欽二（KDD）	釜江尚彦（NTT）
河田 享（シャープ）	上林弥彦（京大）	北 英彦（沖電気）
国藤 進（北陸先端大学院大）	神田陽治（富士通国際研）	斎藤忠夫（東大）
阪田史郎（日電）	島村和典（NTT）	白鳥則郎（東北大）
滝沢 誠（電機大）	塚本享治（電総研）	鶴保征城（NTT）
戸田 巖（富士通）	戸田光彦（富士通）	長島重夫（日立）
西田正吾（三菱電機）	西村 孝（NTT）	野口正一（東北大）
疋田定幸（沖電気）	星 徹（日立）	本田克己（YHP）
松下 温（慶大）	水野忠則（三菱電機）	宮崎収兄（沖電気）
宗森 純（鹿児島大）	守屋康正（富士ゼロックス）	山上俊彦（NTT）
渡部和雄（静岡県立大）		

「自然言語資源の共有化」研究グループの新設について

(主査：松本裕治，幹事：田中裕一，徳永健伸，佐野 洋)

自然言語処理研究は計算機の応用分野として長い歴史を持ち，さまざまなアルゴリズムや実用システムも開発されています。しかし，そこで使われている言語データや要素技術を共有のデータまたはツールとして誰でも利用できる状態にはなく，自然言語の研究を新たに始める研究者にとって大きな障壁になっています。

本研究グループは，特に日本語処理のための形態素解析や構文解析などの基本的なソフトウェア，言語コーパスや電子化辞書などの自然言語データ，すなわち，自然言語資源を共有化することを目的に平成4年11月に設立され，2年間活動していくことになりました。

年間数回の検討会の開催を計画しており，その成果を本誌の報告欄に掲載する予定です。また，成果として得られた自然言語資源は無償で配布することを予定しています。

「マルチメディア情報システムの産業応用」研究グループの新設について

(主査：沢 恒雄，幹事：池田 宏，政井 寛，南 俊守)

上記研究グループが平成4年11月より1年間活動することになりました。

当研究グループは適用業務への応用を主にした研究活動を行います。研究内容は，マルチメディア技術等の先進的科学的・技術が現実の産業の中で適用できる分野を探索し情報量の推定，情報システムへの入出力や処理などの経済性検討や，有効利用のための要件の確定などです。

例えば，流通・サービス産業を主に，経営情報，商品のライフサイクルに関する情報資源，超大量のトランザクションと背景の情報バンクへの適切なアクセスや可視化の方法，知的OAとしてのドキュメント工学などの分野へマルチメディア技術などの先進的技術の応用などです。

本研究の成果については，本誌の報告欄などでお伝えします。

平成5年度研究会について

平成5年度の研究会は下記の23研究会（*新設3）で活動いたします。

なお，研究分野等の活動詳細，新規登録申込用紙に関しましては，本誌 Vol. 34 No. 2 でご案内いたします。（*平成4年度研究会既登録者には，別途継続案内を発送いたします。）

記

(円)

研究会名	登録費	研究会名	登録費
1. 自然言語処理	4,500	13. 数値解析	4,000
2. データベースシステム	5,000	14. 情報システム	4,500
3. 人工知能	4,000	15. プログラミング-言語・基礎・実践-	4,500
4. 記号処理	3,500	16. 情報学基礎	4,000
5. ソフトウェア工学	4,500	17. コンピュータと教育	4,000
6. 計算機アーキテクチャ	4,500	18. アルゴリズム	5,000
7. オペレーティング・システム	3,000	19. 人文科学とコンピュータ	4,000
8. コンピュータビジョン	4,000	20. 情報メディア	3,500
9. 設計自動化	5,500	21. *音楽情報科学	3,000
10. マルチメディア通信と分散処理	4,500	22. *オーディオビジュアル複合情報処理	3,000
11. ヒューマンインタフェース	4,000	23. *グループウェア	3,000
12. グラフィクスとCAD	4,500	*新設	

第 44 回 全国大会奨励賞の表彰

第 44 回全国大会奨励賞は、去る 10 月 12 日～14 日に徳島大学教養部で開催された第 45 回全国大会の席上、会長から下記 12 君に授与されました。

本賞は今年 3 月開催の第 44 回全国大会（於明治大学）の発表論文を対象に、奨励賞委員会（委員長 小林副会長）において表彰規程にもとづき、総発表件数 1038 件中推薦のあった 48 名の候補者の中から 21 名を選び、さらに慎重審議の結果、12 名が受賞候補者として推薦され、第 367 回理事会（平成 4 年 7 月）の承認をえて決定されたものです。

領域マッチングによる画像検索 (5B—5)

西山 晴彦君 (学生会員)

1969 年生. 1992 年慶応義塾大学理工学部計測工学科卒業. 現在, 同大学院理工学研究科計測工学専攻修士課程に在籍中. 画像管理の研究に従事.

浮動小数点レジスタウィンドウを用いた擬似ベクトル処理 (2D—4)

位守 弘充君 (学生会員)

1969 年生. 1991 年筑波大学第三学群情報学類卒業. 現在同大学院工学研究科修士課程に在籍中. 計算機アーキテクチャ, 並列計算機の研究に従事.

並列マシン Cenju 上の LSI ルーター (3D—8)

山内 宗君 (正会員)

1964 年生. 1986 年東京大学工学部電子工学科卒業. 1988 年同大学院工学系研究科情報工学専攻修士課程修了. 同年日本電気(株)入社. 現在, 同社 C&C システム研究所コンピュータ・システム研究部にて, 並列計算機アーキテクチャ, CAD 等の研究に従事.

セットアソシアティブメモリにおける最適ハッシュ関数の選択法 (4D—8)

郡 光則君 (正会員)

1962 年生. 1984 年東京大学工学部電子工学科卒業. 1986 年同大学院工学系研究科電子工学専門課程修士課程修了. 同年, 三菱電機(株)入社. 現在, 同社情報電子研究所ビジネスコンピュータ開発部に所属. 電子情報通信学会会員.

CTRON 拡張 OS 適合性試験の検討 (6J—3)

寺島 美昭君 (正会員)

1961 年生まれ. 1984 年埼玉大学工学部電子工学科卒業. 同年三菱電機(株)入社. 現在, 同社通信システム開発部にて, 通信ソフトウェア開発手法に関する研究に従事.

シナリオ形式で与えられた仕様の詳細化支援 (4K—6)

元木 誠君 (正会員)

1962 年生. 1988 年慶応義塾大学理工学研究科管理工学専攻修士課程修了. 同年日本電気(株)に入社. 現在, C&C システム研究所システム基礎研究部にて, CASE の基礎技術に関する研究に従事. 日本ソフトウェア科学会会員. 人工知能学会会員.

Priority-Based Ordering Broadcast Protocol (2M—3)

中村 章人君 (正会員)

1966 年生. 1989 年東京電機大学理工学部経営工学科卒業. 1991 年同大学理工学研究科システム工学専攻修士課程修了. 現在, 同大学院理工学応用システム工学専攻博士課程在学中. 分散型システムの研究に従事.

CTMA: Channel Tone Multiple Access 方式による隠れ端末問題の解決 (5M-1)

大西 祥浩君 (学生会員)

1969年生。1992年慶応義塾大学理工学部計測工学科卒業。現在、同大学院理工学研究科計測工学専攻修士課程に在籍中。無線 LAN の研究に従事。

遺伝的探索に基づく“虫”の進化(2) 遺伝アルゴリズムによる改良 (2R-9)

秋葉 澄孝君 (正会員)

1962年生。1988年北海道大学大学院工学研究科情報工学専攻修士課程修了。同年電子技術総合研究所入所。現在、同研究所知能情報部推論研究室にて、機械学習に関する研究に従事。人工知能学会、日本ソフトウェア科学会各会員。

ニューラルネットワークを用いたジャズセッションシステム—ニューロ・ミュージシャン— (4R-5)

渡辺 和之君 (正会員)

1965年生。1988年北海道大学工学部原子工学科卒業。1990年同大学院工学研究科原子工学専攻修士課程修了。同年(株)富士通研究所入社。現在、同社ヒューマンインタフェース研究部にて、コンピュータミュージック、人工現実感の研究に従事。音楽情報科学研究会会員。

同報環境に適した無記名投票プロトコルの一例 (5T-4)

紙田 剛君 (学生会員)

1968年生。1992年慶応義塾大学理工学部計測工学科卒業。現在、同大学院理工学研究科計測工学専攻修士課程に在籍中。グループウェアの研究に従事。

伴奏者の自主性を考慮した自動伴奏システム—テンポ感と依存度を利用した伴奏制御— (6U-4)

堀内 靖雄君 (学生会員)

1967年生。1990年東京工業大学工学部情報工学科卒業。1992年同大学院修士課程修了。現在、同大学院博士課程に在学中。自動伴奏システムの研究に従事。

論文賞候補の論文推薦のお願い

平成4年度論文賞の候補論文を推薦される会員は、下記事項を参考のうえ、論文の題名、著者名、掲載巻号、論文の専門分野、推薦理由および推薦者住所氏名を官製はがきに記入のうえ、本会論文賞係宛お送りください。

論文選定条件**1. 選定範囲および推薦数**

平成3年10月から平成4年9月までの間に「情報処理学会論文誌」(Vol. 32, No. 10~Vol. 33, No. 9)および「Journal of INFORMATION PROCESSING」(Vol. 14, No. 3~Vol. 15, No. 2)に発表された論文の中から1編。

2. 推薦資格

本会正会員に限ります。

3. 締切日

平成5年1月31日(日)

表彰規程 (抜粋)**第3章 論文賞**

- 第9条** 論文賞は、本会の機関誌に発表された論文のうちとくに優秀なものを選び、その著者に贈呈する。
- 第10条** 表彰する論文は、原則として毎年4編とするが、編数は事情により変更することができる。
- 第11条** 選定の対象となる論文は、表彰の時期の前前年の10月から前年の9月までの間に発表されたものであることを要する。
- 第12条** 表彰する論文が共著の場合は、共著者全員を表彰する。
- 第13条** 論文賞は、同一著者に重ねて授賞しても差支えない。
- 第14条** 論文賞は、賞状、賞牌および賞金とする。賞金は、論文1編につき30,000円とする。

第46回 全国大会 予約案内

第41回全国大会(平成2年後期)から、講演論文集の分売制を導入いたしました。これにより、論文集の価格が大幅に変わりましたので、購入担当者の方ご注意ください。

つきましては、講演論文集・参加の「予約」を募集いたしますので、ぜひお申込みくださいますようお願い申し上げます。

期 日:平成5年3月23日(火)~26日(金)

会 場:工学院大学(東京都新宿区西新宿 1-24-2)

論文集: B5判オフセット印刷 ※論文集価格は消費税・送料込です

- 第1分冊.....予約価 4,000円 (定価 6,000円)
 - 情報科学一般
 - 基礎理論及び基礎技術
 - ネットワーク
 - 応用
 - 第2分冊.....予約価 4,000円 (定価 6,000円)
 - 人工能及び認知科学
 - 人工能システム
 - パターン認識
 - 生体情報処理
 - 感性情報処理
 - データ処理
 - 音声処理
 - 画像・図形処理
 - 第3分冊.....予約価 4,000円 (定価 6,000円)
 - 人工能及び認知科学
 - 基礎理論
 - 自然言語処理
 - データ処理
 - テキスト処理
 - マルチメディア処理
 - 第4分冊.....予約価 4,000円 (定価 6,000円)
 - ソフトウェア
 - 基礎理論
 - オペレーティングシステム
 - データベース・情報検索
 - プログラミング技術
 - 信頼性と安全性
 - 第5分冊.....予約価 4,000円 (定価 6,000円)
 - ソフトウェア
 - プログラム言語及び仕様記述言語
 - 言語処理系
 - ツール
 - ソフトウェア工学
 - 第6分冊.....予約価 4,000円 (定価 6,000円)
 - ハードウェア
 - システム
 - セット(上記6冊一揃、講演者索引・カバー付).....予約価 24,000円
(定価 36,000円)
- 参加費(プログラム・参加章含む): 会 員 1,000円(賛助会員は正会員に準じます),
非会員 2,000円, 学生 無料

申込締切:平成5年2月12日(金) 必着

(締切後は予約扱いいたしませんので、ご了承ください)

第 46 回 (平成 5 年前期) 全国大会 論文集・参加予約申込書

■申込締切：2月12日（金）必着

分 冊	予 約 価 (円)	部 数	金 額 (円)
第 1 分 冊	4,000		
第 2 分 冊	4,000		
第 3 分 冊	4,000		
第 4 分 冊	4,000		
第 5 分 冊	4,000		
第 6 分 冊	4,000		
セ ッ ト (6冊一揃)	24,000		
参 加 費 (プログラム, 参加章 含む)	会 員 1,000		
	非会員 2,000		
合 計			

平成 年 月 日 (論文集価格は消費税・送料込)
上記の通り予約いたします。

1. 代金は 郵便振替 (東京 5-83484), 銀行振込* (該当にレ印)
送金月日 月 日
*全国大会専用銀行口座「三菱銀行虎ノ門公務部情報処理学会講習会普通口座
No. 0003774」
2. 請求書 通, 納品書 通, 見積書 通が必要です。
〔注意〕団体名でまとめて送金される場合には, 別紙に送金内訳を記入して事務局
までお送りください。
通信欄:
3. 担当者名 Tel. (内)
4. 申込先: 160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27 F
(社)情報処理学会 全国大会係 Tel. 03 (5322) 3535 FAX 03 (5322) 3534

..... (切りはなさないでください)

(送本先住所) (楷書でハッキリ記入してください)

〒

(機関名)

(氏 名) 殿

(Tel.)

(部数) (記入しないでください)

論 (1 2 3 4 5 6 ⊕) プ・参

「手書き文字認識技術の過去・現在・未来」

シンポジウム開催について

郵政研究所では、電子情報通信学会に第三種研究会「手書き文字の認識手法の高度化に関する研究会」を平成3年4月に設立し、手書き文字認識技術の現状及び今後の課題、また郵便便て名の自動読取などの具体的な応用における問題点及び今後の対策について研究活動を進めてきたところであります。

このたび、研究会で行われた研究調査・討論を基にシンポジウム「手書き文字認識技術の過去・現在・未来」を開催する運びとなりました。

日 時 平成5年4月2日(金) 10:00~17:40
会 場 郵政省飯倉分館5階講堂(東京都港区麻布台 1-6-19)
主 催 電子情報通信学会第三種研究会
「手書き文字の認識手法の高度化に関する研究会」
共 催 郵政省郵政研究所
協 賛 画像電子学会、情報処理学会、人工知能学会、テレビジョン学会、電気学会、計測自動制御学会
定 員 200名(申込締切日までの先着順)
申込締切日 平成5年2月15日(金)
参 加 費 3,000円(予稿集代を含む)懇親会2,000円
参加申込 郵政省郵政研究所技術開発研究センター
問合せ先 106 港区麻布台 1-6-19 Tel. 03 (3224) 7373, 7371 FAX 03 (3224) 7363, 7337

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

- | | |
|---------------------------------|-------------------|
| (1) 開会あいさつ | 富永 英義(早大) |
| (2) 招待講演 | T. Pavlidis(SUNY) |
| (3) 手書数字認識における構造解析法とパターン・マッチング法 | 黒沢 由明(東芝) |
| (4) 第1回文字認識技術コンテスト実施結果 | 松井 俊弘(郵政研) |
| (5) 位相構造化法による手書き数字認識 | 宮本 信夫(NTT) |
| (6) 構造化ニューラルネットワークによる手書き数字認識 | 小島 良宏(松下電器) |
| (7) 統計的手法による手書き数字認識 | 木村 文隆(三重大) |
| (8) OCRにおける手書数字認識の技術と応用の動向 | 藤澤 浩道(日立) |
| (9) 手書き漢字認識手法の個性的なサーベイ | 梅田三千雄(大阪電通大) |
| (10) 手書き漢字認識における非線形的手法 | 山田 博三(電総研) |
| (11) 手書き漢字 OCR の開発動向と今後 | 津雲 淳(日電) |
| (12) 会場討論 | |
| (13) 総括あいさつ | 飯島 泰蔵(北陸先端大) |

なお18:00より懇親会を行います。ぜひご参加ください。

「連続セミナー 92」の参加について

——21世紀に生き残るコンピューティングは何か?——

21世紀のパソコンとワークステーションの現状と未来を予測するセミナーを平成3年度に連続6回開催しました。内外の専門家を招いて、6つの視点からこれからのパソコンとワークステーションを考えてゆく試みは参加者の方々をはじめ、広く一般の方々にも大変ご好評をいただけてきました。

平成4年度にはそれらのトピックスをうけて、「21世紀に生き残るコンピューティングは何か」というテーマに発展させて連続セミナーを開催しております。このセミナーもあと2回を残すのみになりました。

そこで、本来は6回連続受講のセミナーですが、特別に1回だけ受講したい方のために、5回、6回に限り、1回だけの方の参加も認めることになりました。多数の方々の参加をお待ちしております。

日 時 第5回 1993年1月21日(木)
第6回 1993年3月11日(木)

場 所 工学院大学312教室(新宿区西新宿)

参加費 会員25,000円, 非会員30,000円, 学生2,000円(各1回)

申込締切 1993年1月18日(月)

資 料 毎回録音テープをもとに議事録を作成し、次回の時に配布します。

〔第5回〕 分散コンピューティングの進展

—分散OSとネットワーク管理—

- 分散OSの動向 徳田 英幸(慶大/CMU)
- ネットワークOSの現状と課題 (未定)
- 分散コンピューティングプラットフォームの実際 佐藤 慶浩(YHP)
- パネルディスカッション コーディネータ: 徳田 英幸(慶大/CMU)

〔第6回〕 硬軟技術限界予測

—21世紀の技術—

- 総括 石田 晴久(東大)
- 硬い技術に関する予測
- 柔らかい技術に関する予測
- パネルディスカッション コーディネータ: 石田 晴久(東大)

講演者が決定次第ご案内いたします。(英語の講演は同時通訳付きです)

内容が多少変更される場合があります。ご了承ください。

「連続セミナー 92」

参加申込書

平成 年 月 日

標記セミナーの参加を下記によって申し込みます。

○参加費（1回分）（該当するものを○でかこむ）

正会員，賛助会員 25,000円 非会員 30,000円 学生会員 2,000円

* 参加費には，議事録代が含まれています。

○議事録のみ（1回分）会員 25,000円 非会員 30,000円 _____冊

○送金方法（該当するものを○でかこむ）

合計 _____円を

a) 当日，会場受付にて支払います。

b) 現金書留で _____月 _____日送金します。

c) 銀行振込（いずれも普通預金口座）で

第一勧業銀行新宿西口支店 2049562

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608

名義人 東京都新宿区西新宿 1-24-1 社団法人 情報処理学会

・送金人名義 _____様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通，見積書 通，納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は1枚1人としてください。（コピーで申し込むこと）

○申込先・送金先（FAXも可）

情報処理学会 連続セミナー係 160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27F

Tel. 03 (5322) 3535 FAX 03 (5322) 3534

.....
(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 〒 _____

機関・
部課名 _____

フリガナ
氏名 _____

殿

Tel. _____ (ex. _____) FAX _____

第5回「利用者指向の情報システム」シンポジウム論文募集

—新しい情報化の潮流と組織のリストラクチャリング—

情報システムが個人から一般社会にいたるさまざまな組織に広く普及・浸透してきた今日、利用者を指向した情報システムをいかに実現するかが重要な課題となっている。この課題に取り組むには、組織と情報システム双方における情報の生産・流通・利用過程の絡みを幅広い視点から捉えて、情報システムの設計と構築を論じる必要がある。

とくに、最近ネットワーク化、オープン化、ダウンサイジング化などの新しい情報化の潮流に対して、組織のリストラクチャリングや人材の育成が急務となってきた。そこで、本シンポジウムでは、このような新しい情報化の潮流の動向ならびにそれに対処するための情報システムの研究動向、方法論、具体的事例等について、発表・討論をおこなう。

日 時 平成5年6月18日（金）～19日（土）

場 所 日本ユニシス豊洲本社

トピックス

- 技術動向・社会情勢からのインパクトと将来展望
- システムインテグレーション、ダウンサイジングにおける諸問題
- 分散化、ネットワーク化における諸問題
- 組織および情報システムのリストラクチャリング
- 人材養成、教育
- システムの開発事例と適用分野
- ニーズの発掘方法、利用者・運用者・管理者とのコミュニケーション手段
- 情報システムの計画・分析・開発・評価の方法論と適用事例
- 情報システムのモデル化とその評価
- 環境整備とツール、プロジェクト管理、その他

実施方法

- (1) 学術的な研究論文のみならず、経験事例の報告、問題提起、アイデアの提案などの論文も歓迎する。
- (2) 応募する場合は、アブストラクト（A4判用紙1枚）を平成5年2月5日（金）までに提出すること。
- (3) 採否の決定は、平成5年2月26日（金）までに連絡する。
- (4) 本論文は、原則として和文（1,548字詰研究会原稿用紙10枚以内）とし、平成5年5月7日（金）までに提出すること。
- (5) 採択論文については論文集に収録する予定である。

申 込 先 (社)情報処理学会「利用者指向の情報システム」シンポジウム係
160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27階
Tel. 03 (5322) 3535 FAX 03 (5322) 3534

問 合 せ 先 本シンポジウムに関するお問合せは、下記までお願いします。
情報処理学会・情報システム研究会 幹事 槻木 公一(つきぎ・こういち)
185 東京都国分寺市光町 2-8-38
鉄道総合技術研究所 SI事業推進部 Tel. 0425 (73) 7309

ソフトウェア工学小規模国際会議'93 論文募集

Joint Conference on Software Engineering '93 (JCSE'93)

日時 1993年11月17日(水) - 19日(金)
 場所 福岡リーセントホテル (福岡市内)
 主催 情報処理学会ソフトウェア工学研究会
 Special Interest Group on Software Engineering, The Korea Information Science Society
 共催 情報処理学会九州支部

ソフトウェア工学に関する国際会議は、従来から種々開催されてきておりますが、そのほとんどが欧米中心のものでした。アジアにおけるソフトウェア工学の諸問題をアジアの研究者間で議論し合うという目的で、初めての試みとして1992年3月に大韓民国ソウルでソフトウェア工学小規模国際会議が開催されました。この会議は150名以上の参加があり、36編もの質の高い論文発表がなされ、大盛況のうちに終わりました。今回の会議は、このソウルでの会議の後を受けて開催されるものです。

分野 要求定義、仕様記述、ソフトウェア設計、ソフトウェア保守、テスト、分散開発環境、データベース、オブジェクト指向、ソフトウェアプロセス、グループウェア、CASE ツール、エキスパートシステム、ユーザインターフェース、開発管理、再利用、品質管理
 情報システムの構築など、ソフトウェア工学全般に関する分野

公用語 英語

応募 下記の要領で3種類の論文の募集を行います。

1. **Full Paper** -- 最大8000語まで

2. **Extended Abstract** --- 2000語程度

どこが独創的なアイデアなのかを明確に書くこと。通常の研究論文以外にも現在進行中の研究でもかまいません。Extended Abstractでの応募も1のFull Paperと同様に採否が審査されます。採択された場合の最終論文はFull Paperの形式になります。発表時間も1の場合と同じ時間が与えられます。

1, 2 どちらの場合も

- タイトル、著者名、著者の所属、住所、連絡先の住所、電話番号、FAX番号、電子メールアドレス及び論文の内容を表す複数のキーワード(上記の分野一覧も併せて参考にして下さい)、200語程度のAbstractを載せた表紙をつけること
- 論文のサイズはA4とします。

3. **パネル討論**

本会議では韓国側研究者を含むアジアの研究者たちとのパネル討論を予定しております。パネル討論のテーマに関して興味深い話題および計画をお持ちのかたはA41枚(日本語でかまいません)にまとめて応募して下さい。採用されたものは、1, 2と同様に最終論文(テーマに関するポジションペーパー)が論文集に掲載され、内容に応じて、コーディネータもしくはパネリストとして討論に参加することになります。パネル討論の応募は、a) 題目、b) 内容の概略(討論のねらい、ゴールを明らかにすること)、c) もし可能ならばコーディネータ、パネリストの案、を含むものとします。

送付先 1, 2, 3 いずれも6部を下記締切日までに送付してください。

152 東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学 工学部 電気電子工学科 佐伯 元同
 TEL 03 (3726) 1111(Ex. 2192) FAX 03 (3729) 1399 E-mail: saeki@cs.titech.ac.jp

日程: 応募締切 **1993年3月31日(水) 必着**
 採否通知 1993年6月30日(水)
 カメラレディ原稿締切 1993年8月15日(日)
 (英文8ページ以内 --- Extended Abstractで応募された方も枚数制限は全く同じです。)

学術情報センターの情報検索サービス 学会発表データベースの統合サービス開始について

当学会では学術情報センター（所長 猪瀬 博）の学会発表データベース第一系（情報・電気・制御等）に、1988年より会員の皆さまのご協力を得て全国大会・研究会における概要情報を提供、当学会の会員は提供データについての検索利用ができることになっております。

このたび、学術情報センターでは学際領域研究、複合領域研究の増加にともなう利用者からの改善要望に応えるため本年11月30日から関連データの検索が一度に行える統合検索システムサービスを開始したとの通知がありました。これにともない、当学会会員は学会発表データベース第一系～第八系（データ件数104,623件、11月現在）を学会発表データベースとして利用できることになりました。下記の利用方法等をご参照のうえご利用ください。

記

1. 利用できるデータベース 学会発表データベース（第一系～第八系）
2. 利用できる者 当学会の正会員
3. 利用手続き 学術情報センターシステム利用申請書および記入要領等を学術情報センターより入手し、記入後当学会経由で提出する。
4. 利用料金 接続料（データベースに接続している時間に対して） 50円/分
ヒット料（検索された情報を端末に出力した件数に対して） 13円/件
5. 利用問合せ先（利用方法等を含む）
112 東京都文京区大塚3丁目29番1号
学術情報センター管理部
共同利用課共同利用係
Tel. 03 (3942) 6933～4
6. 学会窓口 160 東京都新宿区西新宿1丁目24番1号
(社)情報処理学会 全国大会または研究会係
Tel. 03 (5322) 3535

本会協賛等の行事案内*

<国内会議>

IPAL シンポジウム '93

平成 5 年 1 月 27 日 (水)

東京・ICOT

シンポジウム「カーエレクトロニクスとニューウエイブ」

平成 5 年 2 月 5 日 (金)

愛知県産業貿易館

手書き文字認識技術の過去・現在・未来シンポジウム

平成 5 年 4 月 1 日 (金)

東京・郵政省飯倉分館

第 11 回 国際先端技術総合展

平成 5 年 4 月 12 日 (月)～15 日 (木)

東京国際見本市会場

第 12 回 シミュレーション・テクノロジー・コンファレンス

平成 5 年 6 月 23 日 (水)～24 日 (木)

東京・明治大学

3 次元画像コンファレンス '93

平成 5 年 7 月 1 日 (木)～2 日 (金)

東京・工学院大学

第 23 回 信頼性・保全性シンポジウム

平成 5 年 7 月 5 日 (月)～7 日 (水)

東京・JA ビル

<国際会議>

計算機音楽国際会議

平成 5 年 9 月 10 日 (金)～15 日 (水)

東京・早稲田大学

生産情報基盤技術システム国際会議

平成 5 年 11 月 8 日 (月)～10 日 (水)

東京大学

1994 年環境電磁工学 (EMC) 国際シンポジウム

平成 6 年 5 月 16 日 (月)～19 日 (木)

仙台国際センター

* 詳細は本国会議案内欄参照

平成 4 年度会費、論文誌・欧文誌購読費の納入について

本年度の会費および購読費未納の方には、11 月中旬に郵便振替用紙を発送いたしました。会費および購読費は前納を原則としており、すでに多くの方にはご納入いただいております。会費納入の督促は、手数や郵便料がかさみ大きな負担となっておりますので、まだ未納の方は早急にご納入くださいますようお願いいたします。

〔自動振替納入利用の方へ〕

すでに個別にご連絡いたしました。去る 7 月 27 日の振替日に残高不足等で振替未済の方は、会員係にご連絡いただくとともに、早急に別途ご納入ください。

支部だより

北陸支部 研究講演会

日 時 平成 5 年 1 月 22 日 (金) 14:00～16:00

場 所 NEC ソフトウェア北陸 2F ミーティングルーム 1-11
(石川県石川郡鶴来町安養寺 1)

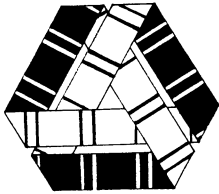
演 題 マルチメディア分散処理とグループウェアの展望

阪田 史郎 (日電)

問合せ先 NEC ソフトウェア北陸 Tel. 07619 (3) 4617 堀口 勝夫

注) 11 月号にて講師の氏名に誤字がございました。深くおわび申し上げます。

会議案内



各会議末のコードは、整理番号です（*：本年既掲載分，**：昨年既掲載分）。会議の詳細を知りたい方は、学会事務局へ切手72円を同封のうえ、請求ください。（国内連絡先が記載されている場合は除く。）

1. 開催日, 2. 場所, 3. 連絡, 問合せ先, 4. その他

国際会議

IEEE Int'l Conf. on Wafer Scale Integration

(*044)

1. January 20-22, 1993
2. San Francisco, U. S. A.
3. 国内連絡先：923-12 石川県能美郡辰口町旭台 15
北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 堀口 進
Tel. 0761 (51) 1265, E-mail: hori@jaist-east.ac.jp

ICMC 1993-計算機音楽国際会議

(081)

1. 1993年9月10日(金)~15日(水)
2. 早稲田大学(東京)
3. 早稲田大学理工学部 ICMC '93事務局 橋本 周司
Tel. 03 (3204) 7177, FAX 03 (3200) 2567

Int'l Workshop; Information Infrastructure Systems for Manufacturing—生産情報基盤技術システム国際会議

(082)

1. 1993年11月8日(月)~10日(水)
2. 東京大学
3. 東京大学工学部精密機械工学科 吉川富山研究室内事務局 安藤 公一 Tel. 03 (3812) 2111 (内 6481)
FAX 03 (3812) 8849

EMC '94/Sendai—1994年環境電磁工学(EMC)国際シンポジウム

(083)

1. 1994年5月16日(月)~19日(木)
2. 仙台国際センター(仙台市青葉区)
3. 東北大学工学部通信工学科 高木 相
Tel. 022 (222) 1800

国内会議

「IPAL シンポジウム '93」

1. 1993年1月27日(水)
2. ICOT ANNEX (東京田町)
3. 情報処理振興事業協会 技術センター 橋本三奈子
Tel. 03 (3437) 2301, FAX 03 (3437) 5386
4. 参加費：無料

第19回 Japan SIGAda

1. 1993年1月29日(金)
2. NTT データ通信(株)芝 A ビル (港区芝)
3. Japan SIGAda 運営委員会 田中 清
Tel. 03 (3740) 5719

シンポジウム「カーエレクトロニクスとニューウェイブ」

1. 1993年2月5日(金)
2. 愛知県産業貿易館
3. (社)自動車技術会 会員部門
Tel. 03 (3262) 8211, FAX 03 (3261) 2204
4. 参加費：正会員 15,000円, 学生会員 4,000円,
会員外 30,000円

手書き文字認識技術の過去・現在・未来シンポジウム

1. 平成5年4月2日(金)
2. 郵政省飯倉分館(東京都港区)
3. 主催：電子情報通信学会
問合せ先：郵政省郵政研究所 Tel. 03 (3224) 7373

Technology Japan '93—第11回国際先端技術総合展

1. 平成5年4月12日(月)~15日(木)
2. 東京国際見本市会場(晴海)
3. 日本工業新聞社事業部
Tel. 03 (3292) 3561, FAX 03 (3292) 6137
4. 入場料：1,500円

第12回 シミュレーション・テクノロジー・コンファレンス

1. 平成5年6月23日(水)~24日(木)
2. 明治大学 大会館(東京・御茶の水)
3. 日本シミュレーション学会
Tel. 03 (5379) 1236, FAX 03 (3225) 1814

3次元画像コンファレンス '93

1. 1993年7月1日(木)~2日(金)
2. 工学院大学(東京都新宿区)
3. 画像電子学会付「3次元画像コンファレンス実行委員会」
Tel. 03 (3490) 2940, FAX 03 (3490) 3810
4. 参加費：会員 10,000円, 非会員 13,000円, 学生 5,000円
講演申込締切：1993年2月26日(金)

第23回 信頼性・保全性シンポジウム

1. 平成5年7月5日(月)~7日(水)
2. JA ビル(東京・大手町)
3. (財)日本科学技術連盟 第二事業部 R&MS 係
Tel. 03 (5379) 1222, FAX 03 (3225) 1814

教官募集



○大学等情報関係教官募集

湘南工科大学 (旧称・相模工科大学) 情報工学科

募集人員 講師または助教 1名
 専門分野 広く情報工学一般 (特にソフトウェア工学, 計算機工学, 計算機応用等)
 担当科目 計算機関連科目, 情報工学実験, 情報工学演習等.
 応募資格 博士の学位を有する者で, 私立大学における研究・教育に熟意を有する者で年齢は45歳前後まで.
 着任時期 平成5年4月1日
 応募締切 平成5年1月20日
 提出書類 履歴書, 研究業績リスト, 主要論文別刷, 今後の研究計画書及び教育に対する抱負, 推薦状または本人の業績等をよく知る方2名の氏名と連絡先.
 送付先 湘南工科大学事務局庶務課
 251 藤沢市辻堂西海岸1丁目1番25号
 「情報工学科教員応募書類」と朱書き, 書留.
 問合せ先 庶務課長または,
 情報工学科科長 伊藤益敏
 Tel. 0466 (34) 4111

関東学園大学経済学部

募集人員 助手または専任講師 1名
 担当科目 経済学部における専門科目である情報処理実習
 応募資格 助手 大学院修士課程修了以上で教育研究能力のある者.
 専任講師 大学院博士課程単位取得者またはこれと同等の研究能力のある者.
 専門分野における研究業績を有する者.
 いずれも経済学または経営学分野における計算機応用に関心があることが望ましい.
 着任時期 平成5年4月1日
 提出書類 履歴書, 研究業績リストおよび主要な研究業績と考えるもの3点 (著書または論文, コピー可).
 応募締切 平成5年1月31日

送付先 373 群馬県太田市藤阿久 200
 関東学園大学教務部宛
 「教員応募書類在中」と朱書き, 書留.
 問合せ先 関東学園大学経済学部教務課長 竹添長和
 Tel. 0276 (31) 2711
 FAX 0276 (31) 2708

明石工業高等専門学校電気工学科

募集人員 助手 1名
 専門分野 電子工学, 情報工学あるいはそれらの関連分野が望ましいが, 他の電気系分野でもよい.
 応募資格 23~30歳位で修士課程修了以上が望ましい.
 着任時期 平成5年4月1日
 提出書類 履歴書, 研究業績リスト, 主要論文の別刷またはコピー.
 応募締切 平成5年2月1日
 送付先 674 明石市魚住町西岡 679
 問合せ先 明石工業高等専門学校電気工学科主任 坂田精三
 Tel. 078 (947) 1151 (内 454)
 FAX (電気) 078 (941) 6807

広島県立大学経営学部経営情報学科

募集人員 経営情報学科助教授 1名
 専門分野 情報処理 (博士の学位を有し, プログラミングの講義, 演習担当可能な者)
 着任時期 平成5年4月1日予定
 応募締切 平成5年2月15日
 問合せ先 広島県立大学経営学部経営情報学科
 主任 川如興永
 Tel. 08247 (4) 1000 (内 1603)

広島大学工学部第二類 (電気系) 回路・システム工学講座

募集人員 教授 1名
 所属 「情報回路網工学」教育科目
 専門分野 次のいずれか. グラフ理論, 組合せ理論, ネットワーク理論, 通信方式, コンピュータネットワーク, 分散・並列処理.
 応募資格 学位を有すること.
 着任時期 平成5年10月1日予定
 提出書類 履歴書, 研究業績一覧表, 論文別刷および推薦書.
 自薦の場合は本人に関する所見を述べる人の氏名 (2名).
 応募締切 平成5年3月31日
 送付先 724 東広島市鏡山1丁目 4-1
 問合せ先 広島大学工学部回路・システム工学講座
 主任 吉田典可
 Tel. 0824 (22) 7111 (内) 3457
 FAX 0824 (22) 7195